

昨年後半に入ってから円安修正傾向が、このまま進行し、円高基調が定着すれば金融政策選択の幅も広がり、金利引下げも可能となります。この1月下旬から2月には、企業コストの低減を計るべく公定歩合の引下げが実現しましょう。

(5) 北陸の経営者の新年見通し

先頃、(財)北陸経済研究所が実施した北陸三県下の経営者に対する新年見通しのアンケート調査の結果によりますと、58年の国内景気については経営者の約半分が、57年と比べて「変らない」とみえています。むしろ「悪くなる」が「良くなる」を若干上回り、どちらかというとな弱気な見方が多いようでありま

す。次に自社の見通しについては、繊維・木材業の一部で、業況の下げ止り感がみられるものの、機械・建設業では一段と悪化を予測しています。特に一般機械では、受注の減少から、現在生産調整を行っている企業もあり、58年は57年以上に厳しくなるとの見方をする経営者が多いようです。

更に所属業界の問題点としては、全産業全社では「国内需要の伸び悩み」「同業者間の競争の激化」を挙げており、特に電気・輸送・精密機械・小売業では「国内需要の伸び悩み」を指摘し、サービス業・建設業

が「企業間競争」、一般機械が「輸出環境の悪化」、木材業が「業界全体の供給能力の過剰」を指摘しておられます。

(6) むすび

以上、私なりに58年の経済見通しのシナリオを描いてみたものの、年途中で、つくり直さなければならぬ破目に陥るかもしれません。特に各官民エコノミストの見通しが、ここ数年では珍しく1%台から4%台までと、予測に幅があります。それだけ本年の経済の先行きが不透明ということでありま

す。要は私達が、多くの官民エコノミストが予測したシナリオの中から今年の日本経済にとって何が問題となるかを、的確に掴み取ることが大切かと思

います。この様な厳しい環境下では、同業者間競争の激化は避けられなく、組織の総合力を最高に発揮し、従来以上の経営の効率化を計り、多様化する顧客ニーズに的確に対応することが肝要であり、また経営者にとっては勇気、判断、洞察の三要素がより必要となるのではないかと考えられます。

皆様のご健闘、ご発展をお祈り致します。

表1 57年度の実績見込みと当初経済予測

項目	政府の実績見込み	経企庁	国民経研	日経研	野村	三菱	住友	第一勧銀	京大経研
実質成長率	3.1	5.2	4.2	4.1	3.9	3.1	3.6	3.1	3.14
名目成長率	5.1	8.4	6.1	7.6	6.5	5.3	7.5	6.6	6.10
民間最終消費支出	4.3	3.9	3.8	3.5	3.2	2.2	3.1	3.0	3.62
民間住宅投資	0.6	10.4	5.8	4.2	3.6	0.4	2.7	4.9	3.54
民間企業設備	2.0	7.7	6.0	6.0	5.3	3.6	5.0	4.6	3.65
消費者物価指数	2.7	4.7	3.1	3.9	3.7	3.4	4.1	4.2	3.52
経常収支(億ドル)	70	120	225	246	194	255	185	125	140

表2 政府および主要民間機関の58年度経済見通し

項目	政府	三菱総研	国民経研	山一証券	野村総研	日経研	第一勧銀
G N P	3.4	4.1	3.4	3.1	3.3	2.7	1.8
民間最終消費	3.9	3.7	3.5	3.6	2.9	3.2	2.1
民間住宅投資	2.6	2.3	4.5	4.4	2.2	▲0.6	0.8
民間企業設備	2.9	3.3	2.7	3.4	4.3	0.9	0.8
輸出	3.7	0.9	5.4	5.3	4.0	2.8	1.8
輸入	3.3	▲4.1	3.4	4.6	3.8	1.9	▲0.1
鉱工業生産指数	4.4	5.0	4.0	4.4	4.1	1.1	0.4
卸売物価指数	1.1	2.2	1.0	1.2	▲0.2	▲0.3	0.1
消費者物価指数	3.3	4.4	1.8	3.3	3.3	2.7	2.5
経常収支(億ドル)	90	141	138	150	122	83	150
円相場(対ドル)	255	231	235	234	225	228.75	247

協同組合 金沢問屋センター

第24号 1983年1月発行
 協同組合 金沢問屋センター
 発行者 小川 甚次郎
 金沢市問屋町1丁目
 電話 37-8585



期待の新流通会館着工の年

協同組合 金沢問屋センター
 理事長 小川 甚次郎

新年明けましてお目出度うございます。先ず関係各位の一方ならぬご支援のもと、組合員154社が、1社の落伍もなく目出度く新しい年を迎えましたことを、喜びと誇りを以てご報告申し上げます。昨年は景気回復の期待も空しく低迷の裡に1年が終りましたが、組合員154社、関連事業所15社が、一層の発展を目指しております。

さて、今年は昨年中曾根新内閣発足以来、行・財政改革を中心とする「マイナス・シーリング」と呼ばれる58年度予算案の発表、アメリカをはじめEC諸国との貿易摩擦など、国内外の経済情勢は昨年にも増して、厳しい環境が予想されます。私共、流通業界にとりましても、消費購買力の低下が一層進むものと思われ、前途に楽観は許されません。このような時こそ、過去15年の蓄積を活かして、真摯な経営努力が物をいうのでございます。又、私共は本年3月より、いよいよ新流通会館の建設に着手いたします。ご承知の通り、来るべき21世紀に向けて、新しい経済構造を模索して、県・市・経済界をあげて取組んでおりますが、従来からの繊維・鉄工・伝統的地場産業に加えて、コンベンション・シティ構想が、金沢商工会議所を中心に検討されております。新流通会館は、まさにこの構想に先がけて、約350坪のコンベンション・ホールと、150坪の小展示室、1,000坪の会館部分から成り、超近代的・機能的な設備を予定しております。もとよりいかに設備が近代化しようと、これをうまく運営、発展させてゆくのは私共自身の真剣な取組み方でございます。金沢市の再開発、そして新しい基幹産業の一つとして、流通業発展のための先導役としての決意を固めておりますので、関係機関の倍旧のご支援・ご高導を賜りますようお願い致しますと共に、組合員各位のご協力をお願い申し上げます。

終りに組合員一同、愈々企業努力を重ねて、繁栄される事をお祈りし、年頭のご挨拶といたします。

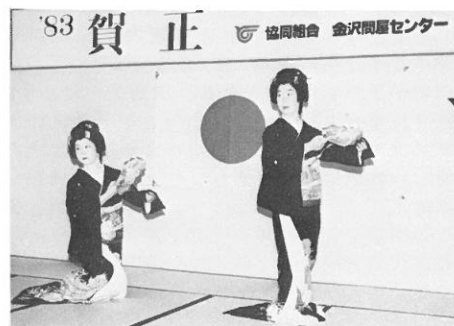
'83 新年互礼会開催

好天に恵まれた、協同組合金沢問屋センター恒例の新年互礼会は、1月4日午後2時より問屋町会館2階ホールで、多数の来賓と組合員商社代表の参席のもとに、めでたく開催された。

小川理事長から年頭の挨拶として、内外ともに厳しい行財政改革や、経済環境の中、58年の新春に組合員商社が、1社も欠けることなく迎えることができた喜びと、今年度は新流通会館建設のため、

組合員が一丸となって飛躍の年にしたいとのべられた。

安田科学技術庁長官からの祝電披露に続いて、中西県知事、江川市長、宮商工会議所会頭、奥田、森両衆議院議員、島崎参議院議員より祝辞を賜り、今井県議会議員の音頭で祝宴に移った。美妓のお酌で話がはずみ、宴たけなわの処、宇野市議会議員の御発声で問屋センターの益々の繁栄を祈って万歳三唱し、本年も盛況の内に終了した。



年男大いに語る

次の世代への責任と義務を



越井商事(株) 社長 越井清太郎

私にとって亥年が5回巡ってきました。十二支最後の干支の亥年、最終は、最初の年に通じる事で、まことに見通しのつく明るい年になると、期待感を抱いております。

好天に恵まれた、正月を迎えてうれしいことには、男も女も着物姿を多く見かけたことです。また、テレビでは男は紋付袴、女性は振袖姿と連日目を楽しませてくれました。この様な光景を見ますと、日本人ならば着物姿を味わい、また心にゆとりも持ちたいと思います。私は着物を販売し、振興につとめている一人ですが、最近の様子を見ていると、ひとりで着物を着れない人が、多い様に見受けられます。呉服店で着物を買って、美容室へ行って着せて貰う。頭の髪を飾るついでに、着物の着付けもということなのでしょうが、着物は着せて貰うものでなく、自分で着るものだとすることを、忘れないでほしいのです。

最近では外人の方も、和服を着ておられる様です。外国へ行くと、日本ブームとかで、着物をはじめ、食べ物、住い、庭園に至るまで日本古来の伝統文化を研究し、とり入れられて、これによって心と心のつながりも、深くなり良いことだと思います。

問屋センターも、昨年は完成十五周年記念を迎えましたが、振り返ってみますと、創設された先人諸先輩の方々の、苦勞されたお話を聞き、私はいつもセンターへ参加出来たことを感謝しております。又これからより以上に、充実発展に通じるよう、次の世代にバトンタッチする責任と、義務があると考えております。本年は新流通会館建設の、運びとなっていることでもあり、理事長はじめ組合員の一層の、ご協力を得て、名実共に日本一のセンターを目指したいものです。

猛進・行動の年に…



(株)東山商会 専務 道上明

明けましておめでとうございます。

まことに穏やかなお正月を迎え、特に当センターの新年互礼会当日の4日は、雲一つない日本晴れの爽やかな日でしたが、私共の経済界を取り巻く内外の情勢はきわめて厳しく、不況に暮れた昨年にも増して、我慢を強いられる年になるのではないのでしょうか。

さて今年は亥年でございますが、亥年と申しますとすぐ「猪突猛進」という言葉が頭に浮んでまいります。私は「猛進」すなわち「行動」する年にしたいと念じております。

世界同時不況といわれる今日、とりわけ米国、EC諸国の不況は円相場の高下、貿易摩擦問題等、国内に於いても行財政改革、超緊縮の五十八年度予算、大型間接税論議等々、どれ一つを取って見てもきわめて厳しく困難な問題ばかりを抱えております。

年男の今年は今迄にも増して、すべてに挑戦し、行動を起したいと思っております。こんな時こそ自分自身の活性化を計り「明日への飛躍」のために、足腰を鍛え直す良い機会になるのではないかと思います。亥年を大いに突進したいと思っております。



分別ある行動を…

小川商事(株) 常務 小川 栄一

「君らはこれから進学・就職と大変やぞ」とよくまわりの人から言われた終戦後最大のベビーブーム、昭和22年生まれの人である。現今の物質万能の時代と違って、脱脂粉乳で育ち、他人をけおとしてまでも、己がはいあがるという競争心を、多少なりとも持った世代である。

亥という猪突猛進で、思ったら即実行し、荒っぽい面があるといわれているが、私もどちらかというと、それに似かよった性格である。落ち着きなく、やや、

むこうみずな行動をとり、後で失敗するということが多分にある。

そうしたなかで、今年は三廻り目の亥年なのであるから、中堅亥として、本当の亥のように急ブレーキ、Uターン、左右確認のできる分別ある行動をとり、経済人、又家庭人として愛される亥年生まれになるよう努力する。そのまに亥のように、大食漢にならず、健康第一を年頭初の抱負にかかげるのが、私の年男としての思いであります。



亥年の初めに

(協)金沢問屋センター事務局 塚田 明宏

昨年3月から事務局に勤め始めて、はや1年近くになろうとしています。この間、多種多様な仕事を体験したためか、あっという間に月日が流れ、とても短かったように感じます。この時期には、仕事の慣れからくる倦怠期になりやすいと言われるのですが、とてもそんな気分にはなりません。

以前、組織として望む新入社員の柱は、1.活力、2.アイデア、そしてそれらを行動した結果として、3.企業のマンネリ化の打破であると聞きました。

バイタリティーを持ち、能率的に新しい方向へ向かおうとしましたが、果たしてよい結果につながったのかというと、どうしても疑問を持たざるをえません。つい人に頼ってしまい、独力でなし遂げたものが、あまり見あたらないからです。

ですから、今年は「難しい仕事に1人で取りくめ。進歩がそこから生まれる」という言葉を肝に銘じて、頑張っていきたいと思います。



私・24才

(協)金沢問屋センター事務局 川崎 真人

ときの流れの、はやさに巻き込まれそうにならながらも、何とかしがみついている、今日この頃です。去年の今頃は、卒業論文の製作で、もたもたしていましたが、今年はメ切り間際のこの原稿に追われております。

学生の頃、毎日のように顔をつき合わせていた友人達も、それぞれの場所へ落ち着き、便りもとだえがちです。先日の連休にぶらりと立ち寄ってくれた友人の、言葉が妙に心に残りました。昔は良かった、

などといつまでも言ってるのではなく、お互いに成長したその時々のことを話し合っ、いきいたいものだというのです。次に彼と会うときには、少しは進歩した自分を見せてやりたいものです。

ちょっと前までは、24才といってもまだまだ先のことだと思っていたような気がしますが、いつの間にかその年になってしまい、若干のあせりを感じております。何分未熟者ではございますが、本年もよろしく御指導の程お願い申し上げます。



昭和58年の景気展望のあれこれ

株式会社北陸銀行

金沢問屋町支店長 辻 信雄

(1) 外れ易い経済の見通し

景気の見通しは難しく、昨年も年初に多くの官民エコノミストが景気回復を予測しましたが、表1の通り、ことごとく外れ最後まで不況から脱せずに58年を迎えました。なかでも円相場が1ドル=280円近くまで下落するとは誰もが予想していませんでした。

なぜ、経済見通しが外れるのでしょうか。最大の原因は経済の国際化が進むと同時に、戦争や革命など国際政治の予測しがたい出来事が為替相場などに直接、敏感に反映するからだと思われています。

それはそうとして、今年の経済見通しのシナリオには「第2次石油ショック以来、3年越しの長期不況のトンネルの先ようやく明かりが、ぼんやりと見え始めるだろう」という筋書きのものが多く、これらから景気の行方を占う主要なポイントを拾い出してみますと、世界経済の動向、国内需要の回復力如何、そして景気政策の方向に集約されると思います。

(2) 世界経済の動向

58年の日本経済を占う第一のポイントは、世界経済、特にアメリカ経済をどうみるかにありましよう。多くの官民エコノミストは上期横這い、下期回復とみていますが、ただ下期の回復度合については微妙な食い違いが見られます。例えば今年の我が国の経済について強気な見方をしている三菱総研では、インフレ抑制を最優先して高金利政策をとってきたアメリカが、在庫調整の進展、個人消費の回復気配、そして戦後最高の失業者を前に、更に金利低下策を進めるとみられることから、下期にかけて緩やかな回復をみせるものとみています。そしてアメリカの景気回復に伴って西欧諸国も、次第に明るさを取り戻してくるという筋書きであります。

一方、シビアな見方をしている第一勧銀では、アメリカが巨額な財政赤字のため不足資金を、市中から調達するために、やっとな低下してきた長短金利が再び上昇し景気回復を遅らせるという見方をしており、両者対照的であります。

(3) 日本経済の動向

こうした上期横這い、下期回復といった世界経済に対する大方の見方を前提として、日本経済の行方を「全体としては昨年と同様にぐずつき気味であるが、前半は曇り空、後半になって、やや薄日がさすだろう」という見方が多いようであります。(表2)

そこで私なりに、日本経済の見通しについてのシナリオを、一気に書きあげてみますと次のようになります。

昨年、我が国の経済の足を大きく引張った輸出は欧米経済がやや明るさを取り戻し、日本の輸出品の海外での過剰在庫が徐々に軽減されるなど、輸出環境が少しづつ好転すれば年央から緩やかな回復に向かおう。ただ欧米諸国との通商摩擦が気になるところでありますが……。

個人消費は物価の沈静が続くでしょうが、今年の春闘の賃上げが、前年を下回るとみられるところなどから、伸び悩むでしょう。また企業の設備投資は特に電力の落込みから横這い程度で低迷し、住宅建設も昨年同様に低調のまま推移ましよう。

石油価格は弱含み、外為相場は円高気配、物価も安定基調で金利は下がるものの、一方財政は超緊縮予算という足かせがあつて、それらの結果、本年の実質経済成長率は3%程度止まりということになりそうです。

このように見てきますと、今年の我が国の経済は輸出主導型になるとまでは言い切れず、また国内需要面での回復力にも、あまり期待できないといった、リード役なき故の「ぐずつき模様」といったところでありましようか。

(4) 景気政策の方向

従って我が国の経済が、ぐずつき気味に推移するとすれば、早めに財政・金融面からの景気対策が望ましいものの、財政面からの景気対策については、58年度の超緊縮予算案からみて期待できず、当面は金融政策に依存せざるを得ないことになりましよう。